

■■■ パネル討論 1 ■■■

地域ネットワークの今後の展開

司会	天野明弘	神戸大学経済学部教授
パネリスト	森下淳也	姫路独協大学情報科学センター助教授
	海老名毅	郵政省通信総合研究所関西支所
	福本誠	兵庫県企画部科学技術担当企画参事
	芝勝徳	神戸市外国語大学図書館主査
	柳瀬健一	さくらケーシーエス(株)研究開発部
	水本好彦	神戸大学理学部助教授

地域ネットワークを構築するためには、管理面、運用面、活用面などいくつかの観点から解決すべき問題が残されている。たとえば、ネットワークによる情報公開といっても、プライバシーの問題、著作権の問題など解決すべき点は多い。現在は、ネットワークの技術的な専門家やボランティアにこれらの問題が委ねられている状態である。本パネル討論では、地域ネットワークの今後の展開を考える上で、神戸市、兵庫県、郵政省、関西ネットワーク相互接続協会、および大学の関係者の方をお呼びして、それぞれの方の貴重な経験を基にして議論を行なった。

まず、姫路独協大学の森下先生より、姫路独協大学は文化系の大学であること、情報処理教育を必修科目としていることなどの大学紹介にはじまり、情報教育用システムおよびネットワークの構成、情報化教育のねらい、システムの利用状況および問題点など、コンピュータ・プレゼンテーションを駆使した詳細な説明がなされた。また、電子メールによる課題提出、質問の問い合わせを実験中であること、遠隔ビデオ通信によるビデオ講義、ネットワーク上を介した対話ソフトウェアによる学生と先生の直接的な対話などの将来的な展望、神戸大学のネットワークに対する要望などがなされた。

次に、郵政省通信総合研究所の海老名氏より、関西支所内におけるネットワークおよび外部接続の維持管理をされてきた経験を基にして、今までのネットワークの問題点や今後のネットワークのあり方について説明がなされた。通信総合研究所特有の問題として、本所と関西支所が位置的に離れているが、両者を結ぶ専用回線の切断事故で混乱が起こったこと、ボランティア主体のネットワーク維持管理では、その人の移動によりネットワークに関する Know-How 伝授がスムーズにいかないこと、関西ネットワーク相互接続協会の設立により、ネットワークの運用が安定してきたことなどが指摘された。最後に、電子メールをマルチメディアに拡張した MIME の紹介があった。

兵庫県企画部の福本氏からは、科学技術を地域においていかに振興していくかという観点から地域ネットワークに関する説明がなされた。播磨科学公園都市の研究基盤としての情報通信

ネットワーク、姫路工業大学の学内 LAN、近畿二府四県プラス三重、福井による近畿リサーチコンプレックスをつなぐための情報ネットワーク構想などが説明された。

神戸市外国語大学の芝氏からは、神戸市において構想されている、大学図書館、公共図書館、専門図書館を一括して運営する図書館システムについての説明がなされた。このシステムは、ネットワークの観点からすれば、各図書館を WAN で結んだ分散型のシステムである。所蔵している資料やサービス対象が異なる図書館群の中で共有すべき情報資源を集中して入力・蓄積しようとしていること、その結果、図書館利用者はこれまでよりもより高い付加価値を持つサービスを得られることなどが説明された。さらに、海外の図書館におけるネットワークサービスの例が説明された。また、図書館に固有の問題として、著作権の問題、情報の二次利用による問題などが指摘された。

さくらケーシーエス（株）の柳瀬氏からは、関西ネットワーク相互接続協会の概要が説明された。さくらケーシーエスは、1987 年から関西の中小サイトを JUNET に接続するボランティアを行なっていること、1991 年頃から、JUNET には運用上、経路制御上の問題が生じていることが明らかになり、関西ネットワーク相互接続協会が設立されたことが説明された。関西ネットワーク相互接続協会は、ネットワークの安定運用、各組織への技術移転、地域の情報インフラストラクチャの確立を目指している。また、現在の地域ネットワークの現状から、何が有益で無益か、どのようなサービスが必要かなどを、企業・大学・自治体のネットワーク関係者が集まり、討論する場を作ろうという提案がなされた。

神戸大学の水本先生からは、大学関係者から見た地域ネットワークのあり方についての提案がなされた。情報ネットワークは「ある目的のための情報を収集する 1 つの手段」であるという観点から、緊急医療情報ネットワーク、保健所ネットワーク、地域的な気象情報ネットワークなどを例として、個人向けの情報提供サービス体制の充実について要望がなされた。

(文責：上原邦昭)